

第三節 昭和二十三年

① 学事抜粋

昭和二十三年

四月十三日～十八日 落合朗風遺作展

同月二十日～三十日 卒業制作展

五月六日～十日 池沢賢遺作展（陳列館）

六月頃 梅原・安井滯欧デッサン展

同 卒業生自画像第二回展

（以上『三彩』第十九号に本校陳列館予定として記載あり）

七月二十二日 学生寄宿舎設置計画認可される。

七月 校内で美術出版社主催夏期洋画講習会開催される。

十一月 漆工部生徒団体奈良見学旅行（西田正秋引率）、日本画

科生徒団体奈良見学旅行。

十二月二十五日 大学昇格に関する審査が東京音楽学校校長室で

行われる。

② 職員その他（主に「辞令簿」による。）

昭和二十三年

二月二十九日 村田徳松（旧名徳次郎）は彫刻科講師を命ぜられ

る。

三月三十一日 嘱託斎藤昇は依願解嘱となる。講師六角頼雄は文

部教官に任命される。

四月一日 田中芳郎は工芸技術講習所勤務兼本校勤務を命ぜられ

る。
五月三十一日 文部事務官八木悌二は文部教官兼務（本校勤務）を命ぜられる。

九月三十日 講師麻生磯次、同児島喜久雄は解嘱となる。

十一月三日 教授安田毅彦は文化勲章を受章。

同月十二日 浜野丈夫は学校医を委嘱される。

③ 卒業

昭和二十三年三月二十四日、左記の生徒が卒業した。四月二十日より同三十日まで陳列館で卒業制作陳列会が行われた（○印は卒業後研究のため残留）。

日本画科	○飯山 勇	牧野 邦夫
平岩 俊郎	井上 悦三	○小林 久三
佐々木 五郎	○井口 啓	○小松 光義
安藤 欣治	八井 藤清	寺井 正行
牟田 末一	○平馬 立彦	○安保健 二
石田 文次郎	吉村 二三生	斎藤 利彦
鬼頭 曄	田中正 元	○白根 光夫
日本画科特別学生	○館野 嘉男	蛭沢 尚
崔 耀義	内田 修	江南 一
油画科	○藤沼 源三	佐藤 昭一

日吉 力	中村 敏夫	山喜多 次世志
田口 光男	工芸科彫金部 梨本 茂	森 康二
彫刻科塑造部		江川 玄武
寺内 幸雄	緒方 正祥	菅原 淳治
小川 智	深沢 幸雄	田中 暎郎
岩田 健	工芸科鍛金部 百木 春夫	武内 芳夫
彫刻科木彫部		阿部 允
加藤 祐一	工芸科鋳金部 西 大由	師範科 堀越 政寿
田村 興造	飯田 三美	堀江 孝治
中野 崙	藤田 俊一	梅宮 馨四郎
阿井 正典	大熊 徳衛	田中 弘三
松本 平	近藤 鎰郎	久保庭 栄二
野口 鎮夫	工芸科漆工部 山岸 寿治	倉持 誠
熊谷 博		北沢 義雄
工芸科図案部		新井 秀一郎
伊藤 恵	建築科	斎藤 真一
岡田 進	橋本 邦雄	佐々野 浩吉
中村 誠	高橋 一雄	白土 光夫
奈須田 正也	棚橋 正二	井上 美彦
前沢 賢治	武笠 士郎	
品川 洋一	北村 脩一	
堀田 信雄	尾藤 豊	

④ 卒業

昭和二十三年中、卒業制作未完成のため卒業延期中であつた左記の生徒が卒業した（三月二十四日付）。

五月十八日

油画科

矢部 行一

日本画科

山本 敬二

塩出 秀郎

金子 省吾

富田 宗作

田中 一

佐々木 磐

二十三年二月病死。特に遺作を以て卒業とする。

六月十六日

木下 猛彦

五月三十日

彫刻科塑造部

末広 禎三

工芸科図案部

村井 真一

浜田 文治

矢野 博正

野崎 一良

川崎 鈴彦

六月七日

岩田 健

高島 昭堂

建築科

十月十二日

上野 泰郎

栗冠 康勝

工芸科鍛金部

関口 雄三郎

木内 於菟一

山本 直久

⑤ 卒業

昭和二十三年九月十七日付で工芸科図案部松岡謙造が卒業した。

⑥ 各科生徒級別現員表

昭和二十三年四月一日

区別	第一年	第二年	第三年	第四年	第五年	小計	計
日本画科	本 科	二〇	二六	二六	二一	九三	九三
油画科	本科	四二	四二	四九	一六	九一五八	一六六
特別学生	四	四				八	